



ぐるっとマップ

No. 31 黒部ダム建設ゆかりの地

保存版

マップ作成: NPO法人ぐるっとネットワーク大町

2013年は黒部ダム完成から50周年! 2012年の今年は、元50周年になります。

世紀の大事業といわれたくろふん建設。その拠点となつた大町市には、黒部ダム建設ゆかりの地が点在しています。そこで今回は、その偉業と歴史とを辿ります。

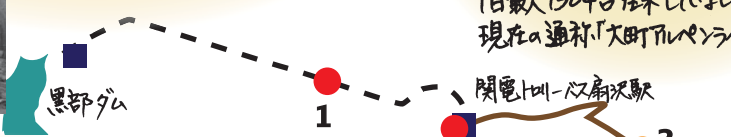
「くろふん」とは、関西電力の「黒部川第四発電所」の略称で、昭和31年から7年の歳月、513億円の工費(当時)、延べ14万人の人手により昭和38年6月に完成しました。

黒部ダム建設には、大町市の高瀬川の石が使われています。

黒部ダム建設には、大糸線から北大町専用停車場を経由して運ばれてくるセメントなどの資材と大町市の蓮華大橋下流の高瀬川河川敷の砕石などが使われました。



黒部ダム建設当時の昭和30年代と半世紀の時を経て、今の信濃大町を見れば昔から散策してみてもいいでしょう。



1. 石破砕帯

大町側から1691mの地点。黒部ダム建設の資材輸送の大動脈であった大町トンネル掘削工事は、この地点で毎秒660L、摂氏4度の水と大量の土砂が吹き出す石破砕帯にぶつかりました。約7ヵ月かけ突破した石破砕帯は約80mで、現在も黒部ダムに向かう関電トンネルの中に青いテープで表示されています。



2. 扇沢駅

黒部ダム建設当時の骨材集積所を再利用した建物で、現在は、黒部ダム、立山黒部アルペンラインの拠点となっています。



4. 大町クラビハウス

来賓用クラビハウスとして建設され、政財界の著名人や世界銀行の関係者顧問団などが訪れたそうです。現在は建て替えられくろふんホテルとして黒部ダムの観光客の拠点となっています。



5. 黒川建設事務所及び関連施設

日向山の黒川建設事務所。昭和31年11月、大町市内の仮事務所から移されました。現在も一部が残っています。

6. コンクリート試験室と工事用機械修理工場

現在は、ホールバスの運行や黒部ダム観光関係などの業務を行う施設となっています。

3. 大町ルート

大町市とダム地点を結ぶ総延長21.2kmの黒部ダム建設資材を運んでいたルートです。外国製の積載量20t~30t級の骨材運送用大型ダンプやセメントを満載した大型トラックが、1日最大1504台往來していました。現在の通称「大町アルペンライン」です。

7. 大町ルートにかけられた、鹿島大橋

大町温泉郷の東、鹿島川に跨る鹿島大橋は、黒部ダム建設のためにかけられました。現在は、黒部ダムへ観光客や市民が利用しています。

8. 骨材採取製造場

破砕設備・製砂設備・ふるい分け設備、選別集積のコンベアベルトコンベア設備が、M4.2から積載量20t級ダンプ45台、30t級ダンプ3台が骨材運送専用として大町ルートで資材運搬をされていました。

9. 北大町専用停車場

現在の北大町文化会館。工中は、大糸線を使い、信濃大町駅から専用の引き込み線でセメントや資材などが運ばれました。

10. トネル完成祈願祭と行った若一王子神社

昭和32年、大町トンネル工事が石破砕帯に遭遇し難航した際、地元大町の若一王子神社の総代会長からの申し出により、北安曇郡市神社総代会合同でトンネル完成祈願祭が行われました。その時のイベントは、小説やテレビドラマでも描かれています。

11. 黒川建設事務所(仮事務所)

現在のクラビ衣料店は、昭和31年6月、日向山の黒川建設事務所が出来るまでの仮事務所となっていました。

12. けんか横町

昭和30年代、黒部ダム建設の作業員の方たちであふれだして、当時「けんか横町」と呼ばれていたようです。



13. 小説「黒部の太陽」の挿絵の場所

大町市内にあるドム型の屋根が特徴的な建物は、小説「黒部の太陽」(信濃毎日新聞社発行 村正次原作)に挿絵として描かれています。

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、皆様から情報をいただきながら、様々な切り口で紹介していきます。次号のテーマは「つる」です。関連情報もぐるっと事務局までお寄せ下さい。ぐるっと事務局: TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557 ※このマップは、HPからダウンロードできます。HP <http://www.gnritta.net>

このマップは「くろふん50周年記念事業実行委員会」制作のイベント「黒部の太陽とくろふん建設の記録」をもとに作成しました。写真提供: 関西電力(株)

※このマップは、2012年6月8日付の大糸タイムスに掲載されました。

※情報は掲載当時のものです。ご注意ください。

※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。